

JIS

情報技術ープロセスアセスメントー プロセス能力のアセスメントのための プロセス測定フレームワーク

JIS X 33020 : 2021

(ISO/IEC 33020 : 2019)

(JSA)

令和 3 年 11 月 22 日 改正

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般財団法人日本規格協会 情報分野産業標準作成委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	渡 邊 創	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	安 形 輝	亜細亜大学
	石 井 正 悟	独立行政法人情報処理推進機構
	伊 藤 雅 樹	株式会社日立製作所
	菊 川 裕 幸	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
	寺 田 真 敏	東京電機大学
	中 上 直 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	仲 谷 文 雄	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
	福 田 昭 一	富士通株式会社
	山 口 大 輔	総務省国際戦略局

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 31.2.20 改正：令和 3.11.22

担 当 部 署：経済産業省産業技術環境局 国際電気標準課

(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)

官 報 掲 載 日：令和 3.11.22

認定産業標準作成機関：一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル)

素 案 作 成 者：一般社団法人情報処理学会

(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館)

審 議 委 員 会：情報分野産業標準作成委員会 (委員長 渡邊 創)

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関又は素案作成者にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	2
2 引用規格	2
3 用語及び定義	2
4 概要	3
5 プロセス能力のためのプロセス測定フレームワーク	4
5.1 一般	4
5.2 プロセス能力水準及びプロセス属性	4
5.3 プロセス属性評定の尺度	9
5.4 プロセス属性評定方法	10
5.5 集約方法	11
5.6 プロセス能力水準モデル	13
附属書 A (参考) プロセス測定フレームワークの適合度	14
附属書 B (参考) プロセス能力の指標	18
附属書 C (参考) プロセス測定フレームワークの手引	34
附属書 D (参考) プロセスパフォーマンスモデルの例	42
参考文献	44
解 説	45

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS X 33020:2019** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

情報技術—プロセスアセスメント—プロセス能力の アセスメントのためのプロセス測定フレームワーク

Information technology—Process assessment— Process measurement framework for assessment of process capability

序文

この規格は、2019年に第2版として発行された **ISO/IEC 33020** を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

この規格は、プロセス能力のプロセス品質特性のためのプロセス測定フレームワークを定義する。この規格におけるプロセス測定フレームワークは、**JIS X 33003** の要求事項に適合しており、あらゆる領域に適用可能である。プロセス測定フレームワークは、**ISO/IEC 33004** に規定されているように、プロセス能力のアセスメントのための任意のプロセスアセスメントモデルに含めることが可能である。

この規格は、主にプロセス能力のプロセス品質特性のためのプロセスアセスメントモデルの開発者を対象としている。このプロセス測定フレームワークの要求事項が満たされていることを確実にする必要があり、リードアセッサ、アセスメントの依頼者などの他の利害関係者も対象としている。

この規格は、プロセスの実行の結果として生じる客観的エビデンスに基づき、プロセス品質特性のアセスメントのための一貫性のある分かりやすい枠組みを提供するように設計された規格類一式の一部である。規格類一式は、全体として、あらゆるタイプのプロセス品質特性を扱う。アセスメントの結果は、プロセスパフォーマンスの改善、ベンチマーキング、又はプロセスの適用に関連するリスクの識別及び対処のために適用可能である。

ISO/IEC 330xx 規格群 (**JIS X 330xx** 規格群) と呼ばれる **ISO/IEC 33001** から **ISO/IEC 33099** までの規格群は、プロセスアセスメントに必要な要求事項及び資源を定義する。総合的なアーキテクチャ及び内容一式は、**JIS X 33001** に記載している。プロセス品質特性及び組織プロセス成熟度のアセスメントに対する適合性評価の適用に関する一般の課題は、**ISO/IEC 29169** で扱っている。

プロセスアセスメントのための **JIS X 330xx** 規格群の幾つかの規格は、**JIS X 0145** 規格群を置き換えて拡張することを意図している。この規格は、**JIS X 0145-2:2008** の **箇条 5** を置き換えることを意図している。**JIS X 33001:2017** の **附属書 A** は、**JIS X 330xx** 規格群と **JIS X 0145** 規格群との関連性の詳細な記録を提供する。